



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

宗祖日蓮大聖人御会式法要

11月11日(土)～12日(日) 11時・14時 北辰閣2階御宝前にて
 日蓮大聖人を偲び感謝する法要が御会式です

聖人は法華経を説き弘めるために一生を捧げられました
 そのご臨終のときには池上の全山に桜が咲いたといわれます
 参詣者には御会式桜とおはぎの供養があります

〔11月の主な行事〕

☆七五三詣り祈禱 1日～30日

◎お子様の成長を祈り期間中毎日ご祈禱します
 ◎ご祈禱札並びに御守り・記念品等を贈呈します
 ☆宗祖御会式法要 11日(土)～12日(日)

宗祖日蓮大聖人のご恩に感謝し、報恩法要を
 二日間厳修 御会式桜・おはぎの供養あり

★清掃の日 15日(水)11時～12時

★月例祈願法要 15日(水)13時

★鷗様月例祭 22日(水)15時

●11月の写経会はありません

〔12月の行事予定〕

★写経会 10日(日)11時

★清掃の日 15日(金)11時～12時

★月例祈願法要 15日(金)13時

★鷗様月例祭 22日(金)15時

この日にご祈禱を受けた方には

火伏せの守り札(鷗様の黒札)を授与します

●星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

◎ご祈禱・御回向等のお申込はFAX・メールでも
 受け付けています

○諸行事は社会情勢により変更する場合があります

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

○奉賛会会員は妙見口駅へ迎えに行きます

送迎車の運行につきまして詳細は

事務所にお問い合わせ下さい

◆ケーブル&リフトは12月3日まで終了です

(詳細は能勢電鉄へ Tel 07279927716)

「生死をこえて」

相川大輔

先日、緩和ケア病棟担当の看護師の方のお話を聞く機会があった。

彼女によれば、緩和ケア病棟を担当する看護師はおよそ2〜3年で異動するが辞めてしまうのだそうだ。短い期間だが患者の方々と関わり、少なからず心を通わせるため、患者の方々に看取っていくたびに心に負担が蓄積され、その重みに耐えられなくなるといふ。

この話を聞くと即座に、母を看取った十数年前の記憶が甦った。

三か月の余命宣告を受け緩和ケア病棟を経て自宅で最期を迎えた。この三か月間、母は日記をつけていたが、実は今でも私はこの日記を開くことができないでいる。きつと母を喪った心の傷がいまだに癒えていないのだろう。このように、

人の最期を看取るといふことは心に大きな傷を残してしまうのだ。

では、こういった心の傷は一体どうすれば癒すことができるのだろうか。

医療的な方法としては、「グリーフケア」がある。グリーフケアは基本的には専門家によるカウンセリングで、対象者に寄り添って徹底的に話を聞いていく。その過程で対象者は大切な人を喪失した悲しみと向き合い次第にその死を受け入れ乗り越えていくという。

しかし私は両親や友人を亡くした経験からこう思いもする。はたしてこの悲しみを乗り越えられるのか、そもそも乗り越える必要があるのか、と。

私たちはお題目をお唱えするが、それは久遠の釈尊のもと一切衆生は霊山にいつも一緒にいることを実感するためだ。私の両親も生前は言うまでもなく、肉体

を離れた今も確かに私の隣に存在していることを実感するためだ。

そう、両親の喪失は決して克服すべき悲しみではなく、両親の存在のしかたが変化したため関わり方をそれに合わせる必要があり、そのことに気づくことこそ大切なのだ。

この法華経の世界観を生きて、一切衆生と常にともにあることこそ、お題目を堅持するということなのだ。

日蓮聖人の綿帽子

日蓮聖人のお像にかけする綿帽子は、小松原法難に因んだものです。東條景信の襲撃で額に傷を受けた聖人が身を休めているとき通りがかつた老婆が自分のかぶっていた真綿を差し出し傷を癒やしてくれたのが、その由来です。赤い綿は血潮に染まったことを意味します。11月11日小松原法難会の頃におつけします。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

願を起こして

願いは誰にもあるけれどそれを実現するために必要なのは根気です

無上菩提を

途中で投げちゃあダメですよ

求めしに

苦しい時こそ正念場辛い思いを乗り越える

心退転せず

気力・体力 養うが人生

『見宝塔品第十一』

必修科目です

仏教まめ辞典

通(つう)

ある物事について並外れた深い知識、理解力を持つている人、あるいはその方面の事情に明るい人を「あの人は通だ」と評する。通人という言葉もあるが、これは粹でさばけており、垢抜けている人のことをいう。

もとは通という言葉は仏教で説く神通力から出たもので超自然的・超越的な知識や能力を意味するものであった。どこへでも行ったり姿を変えられる神足通、世のすべてを見通す天眼通、すべての声を聞き分ける天耳通、心を見通す他心通、過去を知る宿命通、そしてすべての煩惱をなくす漏尽通の六種がある。漏尽通だけは仏でなければ得られないが、他は仏でなくても得ることができるといふ。こうした力に憧れて出家する修行者もあったが、釈尊は神通力の他用を禁じられた。